

A photograph featuring three female figures in a modern interior setting. On the left, a figure with short blonde hair stands in a black lace bodysuit and stockings, looking towards the center. In the middle, a figure with red hair stands in a white lace bodysuit and stockings, looking down. On the right, a figure is bent over, wearing a grey bodysuit and stockings. The background includes a grey sofa and a white staircase. The text '双子の邸宅' is overlaid in the center, and '顔騎倶楽部@SenYume' is overlaid below it.

双子の邸宅

顔騎倶楽部@SenYume

始まりの夜

1日目

その大きな家には、とても美しく妖艶な二人の美女が住んでいるという話だった。
たまにその場所へ入っていくのは高級な外車ばかり。その噂を聞きつけたのは一人の青年。

その男は様々な求人サイトをあたっている内に、奇跡的にこの館の女性と思われる人からの求人を見つけた。
遠方に住んでいた男だったが、すぐさま応募し、ついには面接までこぎつけた。今日はその面接日である。


その豪邸の敷地内に足を踏み入れた青年は驚いた。とても高い塀に囲まれた邸宅、そしてそれより高いヤシの木。庭にはプールも用意されており、穏やかな風が流れるその場所には屋外なのにリクライニングチェアまでおいてある。

仕事の内容は女性二人のお世話をするというようなことだった。それは一週間の泊まりこみの仕事らしい。体力には自信があった青年はこの場所にいられるだけでも嬉しいのだから、なんとしても合格したかった。

彼がこの仕事に応募してから、既にメールでの様々なやり取り、厳しい書類選考が行われていた。そして今回の最終面談。目の前に座る二人の女性達は噂で聞いているよりも更に美しく感じられた。なんとしてでも合格しなくてはならない。

厳しい問答を想像していたが、予想とは違うゆるいやり取りだけが行われた。とりとめもない雑談である。今日どうやって来たのか。周りには話をしているのか。家族の近況など：本当にどうでもいいような内容だ。



A woman with short, wavy silver hair is seated on a modern, metallic chair. She is wearing a black, form-fitting, sleeveless top and black leather pants with silver studs along the side. She is looking towards the right with a slight smile. The background is dark and textured.

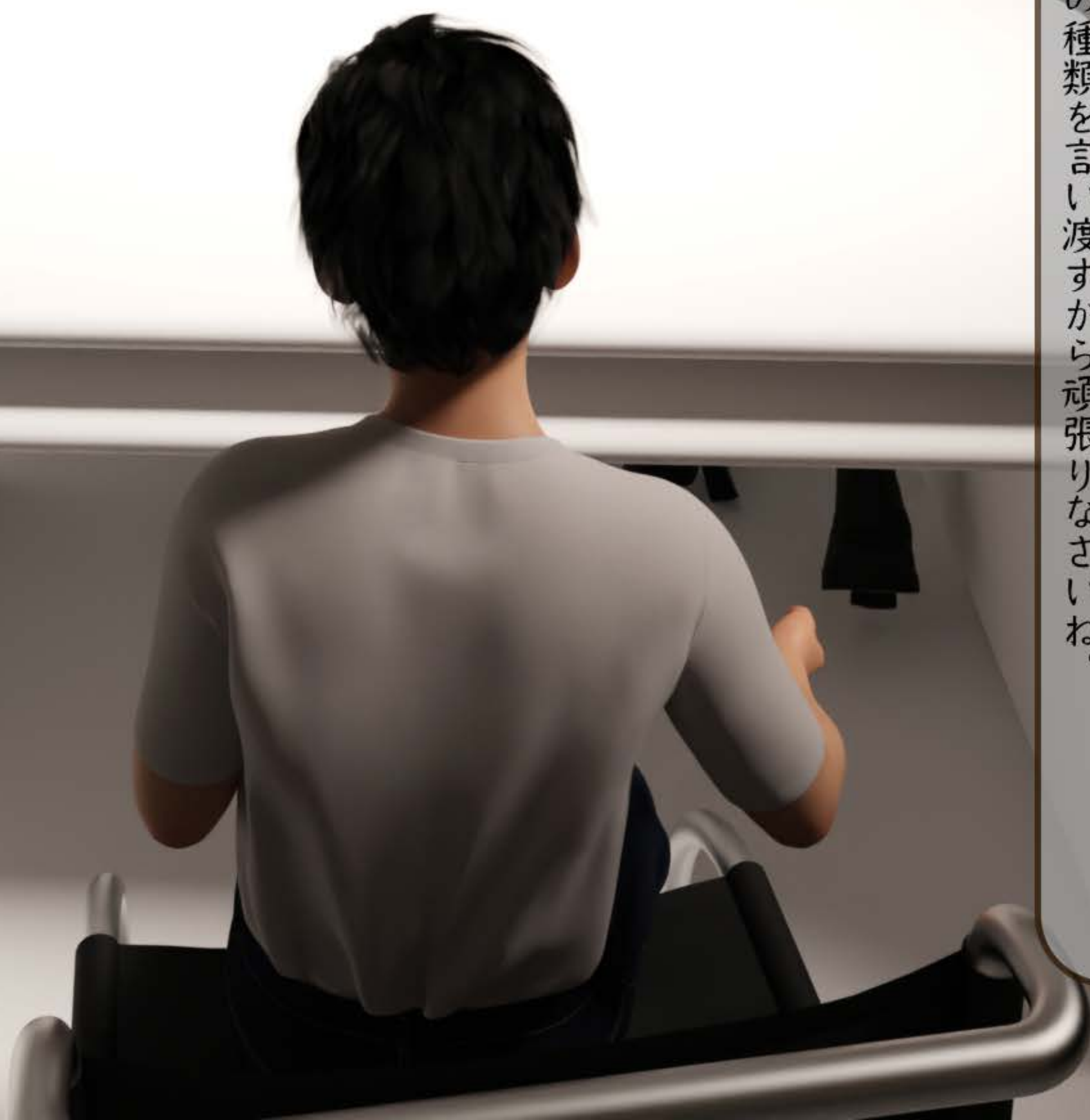
この銀髪の女性の名前がヒカリ。ハキハキとした喋り方で大変好感が持てる。
どうやらその青年は彼女たちに気に入られたらしい。話がどんどん進む。

そしてこの赤髪の女性の名前はアカリ。ヒカリに比べるとおっとりとした話し方だ。そして面白い事実が一つ。この二人は双子のようだ。喋り方を除いた、声の性質はそっくりだ。そして顔や体型もよく似ている。



それじゃ…さっそく今夜から試させてもらおうか。トレーニング期間は三日間。そこで勉強をしっかりとしなさい。そして四日目がテストよ。その結果に応じて最終的な仕事の種類を言い渡すから頑張りなさいね。

私達、日中は忙しくて出かけていたりもするから、基本的に業務は夜のことが多いかな。禁止事項とかお給料の支払いについては事前にお伝えした通りね。そのへんは理解できているかな？





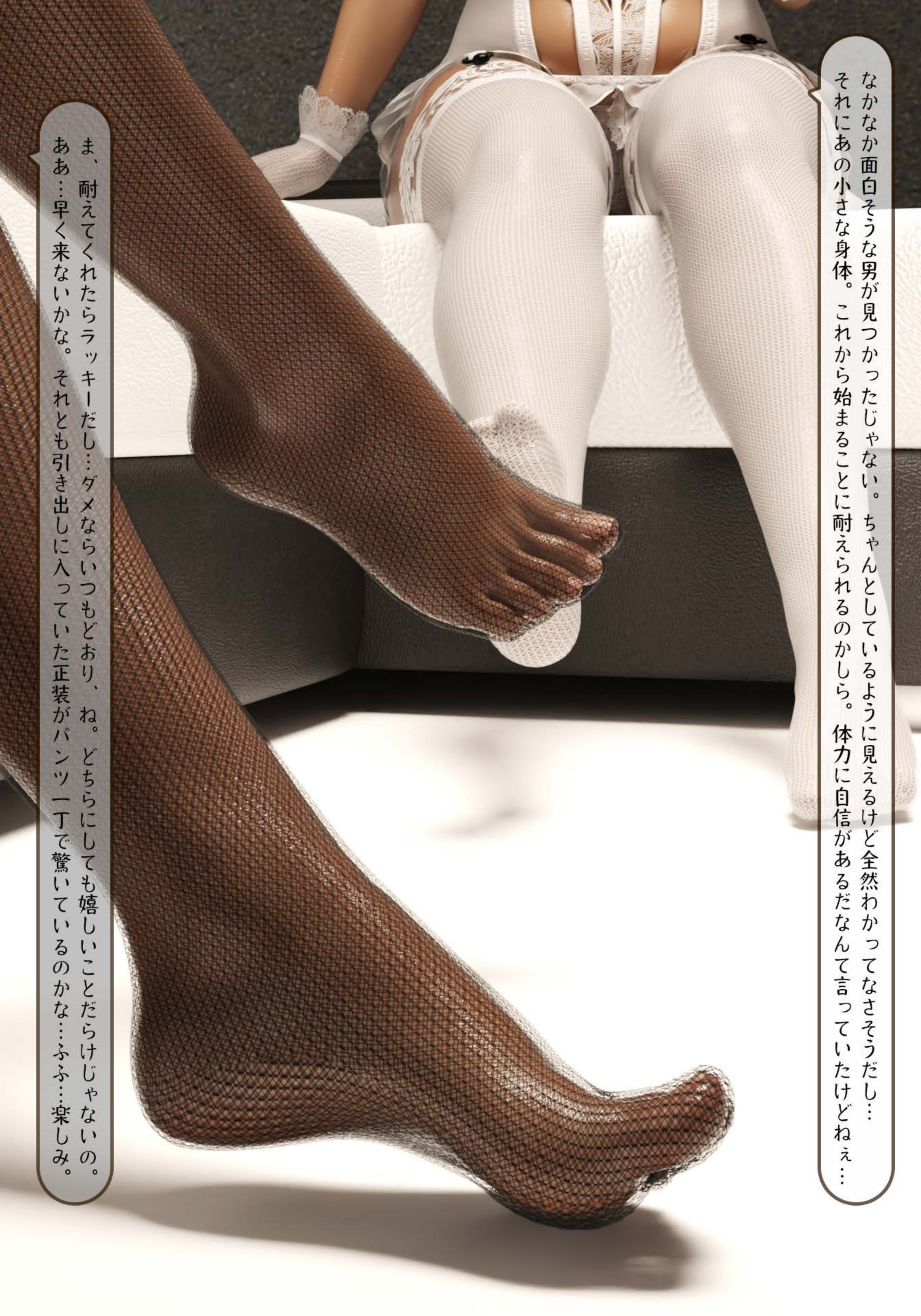
はい。心得ております。一週間の住み込みで途中退出は違約金が発生。
こちらからお二人に触るのは禁止と言われております。

うん。それだけ理解できていればオーケー。それじゃ早速着替えて頂戴。そこにある引き出しに正装が入っているから。そうそう、それと今持ち歩いているデバイスや携帯電話は全て預からせてね。それも契約に含まれていたでしょう？

そうね。ここは機密情報もあるから変なことをされると困るからねえ…ま、嫌ならそれまでだけで…どうする？
…理解したようね。それじゃ私達も着替えがあるから先に出るね。向こうのリビングで待っているわ。



数分後



なかなか面白そうな男が見つかったじゃない。ちゃんとしているように見えるけど全然わかってなさそうだし：それにあの小さな身体。これから始まることに耐えられるのかしら。体力に自信があるだなんて言っていたけどねえ：

ま、耐えてくれたらラッキーだし：ダメならいつもどおり、ね。どちらにしても嬉しいことだらけじゃないの。ああ：早く来ないかな。それとも引き出しに入っていた正装がパンツ一丁で驚いているのかな：ふふ：楽しみ。



あの、すみません、私の声が聞こえますか？……引き出しの中に入ってるのがパンツ一枚で…何か間違っていないですか？
さすがに裸同然の姿でそちらに行くのは間違っていますよね？…そもそも…ちよつと恥ずかしいのですが…

なにも間違っってなんかいないわ。それがあなたの正装よ。
ほら、私達を待たせてはいけないわ。早く着替えてこちらに来なさい。

そうそう。本来は全裸が正解なんだけど、あなたはまだトレーニング中でしょ？
それに私達はあなたを性的な目ではみていないの。だから安心しなさい。



んふふ…とても似合っているじゃないの。でも、あなたのその姿勢は良くないところがあるね。
両手は頭の後ろへ。そして背筋を伸ばして全身を私達に見せなさい。ほら早くしな。命令は絶対よ。



うん、それでいいわ。それにしても小さい身体ね。体力がないと務まらない仕事ばかりだけど大丈夫？
ああ、そうそう始める前に言っておくけど、本当に始めてもいいのね？ 恥ずかしいならやめておくけど…

もちろん…大丈夫です。こういった仕事も経験ですし…
それに美しいお二人になら見られても問題ないです。


あらそう。それなら今から一週間、よろしくお願いね。
あなたが弱音を吐かないことを楽しみにしているわ。



じゃ：とりあえず今日のところは：まず私達の匂いから覚えてもらおうか。
あなたはそのままの姿勢を維持しなさい。手は絶対に頭の後ろよ。

三日間かけて私達の様々な情報を記憶するの。最初はどこにしようかな：……そうね、まずは汗臭いワキの匂いを嗅いでもらおうかな。ほら顔をあげな。





あつ…すみません…
…ごめんなさい…

頭を上げろって言ったのが聞こえなかったか？ほら顔をあげろよ。
優しい言葉で理解できないなら、厳しく対応することになるぞ。


ほら、頭をあげたら左を向きな。今からヒカリのワキの匂いを嗅がせてやる。
精神を研ぎ澄ませて匂いを覚えることに専念するんだ。わかったか？

ほくらここよ。ふふふ…あらあら怖がっているじゃないの。アカリ、厳しくしすぎよ。
いきなり初めての経験だらけで彼も焦っているんでしょう。許してあげなさい。



ほら…汗だくの私の匂い…たっぷり嗅いでね。ちよつとキツイかな…？
酸っぱい臭いニオイが漂っているのわかる？…ここであなたのお顔を挟んであげる。

ムワッ…



うんうん：可愛い反応をするね。酷い悪臭でしょ。
でもそれを覚えるのが君の仕事だから。しょうがないね：

きー！！

あらあら…そんな切ない声をあげるなんて…もう限界なのかしら？
それとも………すっかり覚えられたって意味かな？…ちよっと休もうか。

ム………!!

え、もうダウンなの？まだ私の匂いを嗅いでないじゃん。
ほらほら手は頭の後ろ。背筋を伸ばしなさい。

う…目眩が…
…キツ…イ

ちよつとあなたには刺激が強すぎたかな？もう…しょうがない。
それじゃ手伝ってあげるから…アカリの匂いも嗅いであげて。




よいしょ：つと。ほんとにあなたは身体が小さいし：細いのね。ほらしっかり踏ん張りなさい。倒れないように私が左右だけは支えてあげる。手を伸ばして：そう。両腕はアカリに支えてもらいな。



ほら…これで完成。たくさんアカリのお股の匂いを嗅ぎなさい。私のワキより格段にヤバイ匂いがしそうだけど…
でも…ちゃんと匂いを覚えるまでは絶対に逃げられないよ。ほらクンクンしなさい。ふふふ…面白い。

うん、ちょうどいい大きさね。実は今日のために三日ほどお風呂をやめているのよ。そうすると匂いも最高になるでしょ？
あらあら…可愛く震えているわ。それは感動によるもの？それとも…絶望によるものかな？まあ…しっかり覚えてね。



A woman with vibrant red hair, wearing a white lace-trimmed top and a white skirt, stands over a man lying on his back on a grey floor. She is looking down at him with a slight smile. The man has dark hair and is wearing a white shirt. His legs are spread apart, and he is wearing black lace-trimmed stockings. The scene is lit with soft, warm light, creating a sensual atmosphere. There are some small, stylized white squiggly lines on the floor near the man's legs.

あらあら…小刻みに震え始めたわね。ひよつとして…もう限界なのかしら。それとも記憶が完了したってことかな？
あなたが優秀であることを信じて…とりあえずやめてあげる。でも…次はヒカリのお股の匂いを嗅ぐのよ。わかった？

あら：どうして起きないの？
次は私の番だったはずだけど：

すみません：ちよつと体調が悪くて：
勘弁してください。明日がんばりますので：



そう。いいわよ。今日は初日だしあなたも頑張ったんだからね。でも一つだけペナルティを与えるわ。また明日の夜、同じ時間帯にこの場所で待っているわ。あなたの部屋は二階よ。アカリ、あとは頼んだわ。

あらあら：ペナルティだって。残念だったね。でも頑張れないあなたがいけないんだからね。満足に歩けなさそうだし：あなたのベッドルームまで私が運んであげる。明日の夜も頑張ってね。



苦しみの日々

2日目

昨日はゆっくり眠れたようでよかった。今日のトレーニングにもしっかり時間通り来てくれて私は嬉しいよ。もうちょっと準備が終わるから…待っていてね。……っと…ここをこうして…うーん…と…はい、完成。

そんなに心配そうな目をしなくても大丈夫よ。これは昨日のペナルティ分の首輪だからね。大丈夫よ。ちゃんとどんなものか教えてあげるから。これは…いわば保険のようなものよ。




ほら：コレが見える？コレはその首輪を作動させるためのスイッチよ。かわいいでしょ。
君がまたペナルティを受ける必要があるときに私はこのボタンを押すの。どうなると思う？



そのスイッチを押すと、かなり強めの電気が流れるの。訓練されていない人間なら気を失ってしまうかもね。ま、普段は使わないから大丈夫よ。君にペナルティを与える必要があるときだけ。わかった？ちゃんと頑張ってね。

あ……電気……
こ……怖いです……





怖がる必要はない。途中で投げ出したりするような愚かな人間にしか使わないからね。
ほら…今日のトレーニングを始めようか。そこのソファに仰向けになりなさい。

今日は私達の重さを覚えてもらおうかな。君は全身を使って私達の重さを覚えるの。
体力には自信があるって言うてたし…大丈夫だよ。じゃ…まずは私から失礼するよ。

…お…重さ？
重さを覚える？



それじゃ：よろしくね。……ほら、これが私の重さだよ。正確に理解してもらいたいから：あとで全体重かけてあげる。
テストの時は私が、アカリなのかわかれれば大丈夫だからね。アカリは私よりもかなり重いから：すぐにわかるはずよ。



ズッ！

あらあら：：どうしたの？この世の終わりみたいなお顔しているじゃん。
そんなに息苦しいの？まだ半分ぐらいの体重しか：：かけてないんだけど：：

……お：：重い……
です：：苦しい。

さてと：：私は重さ覚えの前に、昨日の続きをしようかな。匂いをもう少し嗅がせてあげるね。
……どこの匂いが嗅ぎたい？お尻？それともお股？それとも：：うーんそうだ！足の匂いにしよう。



今日はけっこう長距離歩いたから：汗が凄いし、そもそもの話だけど：昨日から洗ってないんだよね。かなり濃い匂いだと思うけど、しっかり覚えて頂戴ね。そのあとは蒸れたお尻の匂いを嗅がせてあげる。

ほら…これで八割ぐらいだよ。全体重いけそうだね。さすが体力に自信があるだけのことはあるじゃん。あー…それと、息苦しいのはわかるけど、あまり悪い言葉は使わないでね。重い！って言われて喜ぶ女性がいると思う？




ほら：これが私の足の匂いよ。ちゃんと深呼吸して鼻の奥、肺の底まで染み渡らせなさい。足の匂いはヒカリと私はかなり違うからかなりわかりやすいはずよ。ちゃんと嗅ぎ分けてね。

ム...!

そして…よつと…：…ほらこれが全体重だ！
良い重さでしょう？覚えられるまで続けるからね。





十分：二十分：三十分：男にとって厳しく辛い時間が経過していく。
首輪の効果が出たのか今日は全く根をあげない。しかし終わらない。



一時間後

長時間よく頑張ったね。次は私のお尻の匂いを嗅がせてあげる。
重さも充分に加えてあげるから…同時に記憶しなさいね。

あ…あの…もう…
やめ…やめて…



あら：何か言ったかしら。よく聞こえなかったわ。ふふ：私のお尻の匂いを堪能しなさい。
今日はこれでおしまいの予定だから：最後まで頑張りなさい。ほら：深呼吸をするのよ。

ズッ!!



んふふ：興奮しちゃう。結構がんばりやさんなのね♥それにしても凄い震え方ね。
でも：もう少し。まだ大丈夫だね。その震えが止まる直前まで：ふふふふ♥

あらあら：何やら叫んでいるね。記憶が終わったって意味かな？……でも違うと困るからもう少し。
その声を発する元気がなくなる直前まで：乗り続けてあげるわ。…あとすこし……あと……すこし。ふふ♥

ふふ！！

あら…少しやりすぎちゃったかしら。ま…でも最後まで頑張れて偉いね。
明日はもっと厳しくしても大丈夫だよ。じゃ…明日も同じ時間をお願いね。

それじゃ…今日も私がお部屋まで運んであげるね。
明日は味を覚えてもらうよ。明日も楽しみだね。

…ダメだ…この場所は危険だ…
なんとか…逃げなくちゃ…。



決心

3日目

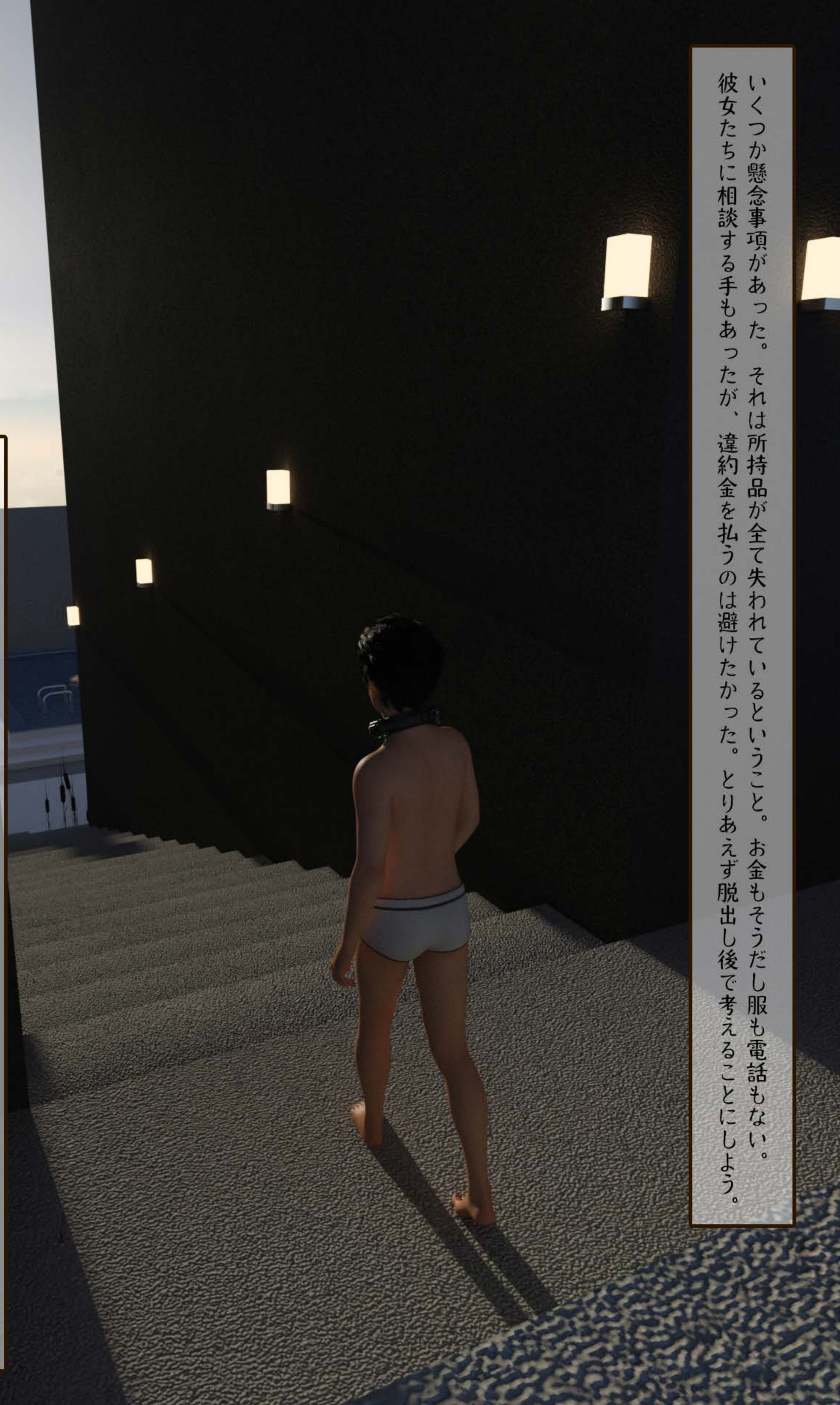
三日目の夕方。男は指定された時間より早くに目覚めた。
既に心は決まっていた。この場所から逃げ出すのだ。



彼の想像を遥かに超えた数々のトレーニング。男の精神も肉体も限界だった。
もう少ししたら訓練の時間が始まってしまう。彼女たちが帰ってくる前に脱出しなくては。

いくつか懸念事項があった。それは所持品が全て失われているということ。お金もそうだし服も電話もない。彼女たちに相談する手もあったが、違約金を払うのは避けたかった。とりあえず脱出し後で考えることにしよう。

部屋を出るとすぐに出口へと向かった。昨日もこの時間はまだ彼女たちはいなかった。帰ってくる時はいつも大きな車の排気音がする。男は裸足で出口への道を急いだ。



庭をまっすぐ駆け抜け、出口のすぐ近くまで来た。あと少しだ。
裸で街を歩くのは嫌だが、仕方ない。近くの人に事情を話そう。

この邸宅から出たあとのことをあれこれと思索する。
いくつかの考えが浮かんできたところで不意に大きな音が鳴った。





鋭い痛みを首に感じ、その場に倒れ込んでしまった。
何が起こったのか全く理解できなかった。

全身に痺れるような感覚。首輪が作動したのだろうか？意味がわからなかった。
しかし、やってしまったことの重さに次の瞬間気づくことになった。

だから言ったでしょ。それは保険だって。こんなところで何をしているの？
ひよっとして勝手に外出しようとした？そんなの許されるはずないよねえ…

私達がいなければ首輪が作動しないとでも思ったの？残念だったね。出口に勝手に近づいたら作動するのよ。
位置情報も発信し続けているから、お前が階段を降り始めたあたりから私達は把握していたんだけどね…ふふ…



……ちょっと早いけど今日のトレーニングを始めようか。
この場所なら汚れも気にならないし。ね、特別に許してあげるよ。

そうね。それじゃ始めようか。今日は味を覚えてもらうわ。
なんの味かわかる？ふふふ♥……まずは私の味からお願いするよ。

え……あ……つと……
許してくれるんですか？



体験版を最後までお読み頂きありがとうございました。

製品版では以下のような責めが続きます。

お仕置き舌奉仕,聖水責め,黄金責め
耐久テスト,便器システム化…などなど
残り83ページ…どうぞお楽しみください。